

JTBは、人と地域の交流を通じて、土地に根ざした産業の魅力を伝え、世代を超えての農山漁村の価値と学びを育む社会の創造を目指します。

資料 4-4

事例1. 【アサヒビール×青森県弘前市】

援農をテーマにした取組『ひろさき縁農プロジェクト』

～弘前市のりんご産業支援を通じた地域活性化を目指して～

援農ツアーを通じて人と地域をつなぎ、
地域農業の持続可能性向上と関係人口の拡大に貢献

テーマ

企業課題×農家支援×地域貢献

事業概要

企業版ふるさと納税の取り組みを通じて、アサヒビールの製品「ニッカシードル」の原料であるりんごの生産地、弘前市の課題解決に取り組んでいる事例です。

現在においても日本一大りんご生産地である弘前ですが、
・生産者の高齢化・後継者不足

の波が押し寄せ、人手不足が現在非常に大きな課題になっています。そこで企業版ふるさと納税の仕組みを活かし、本当に人手が欲しい農家への補助労働力支援、本当の意味での『縁農プロジェクト』を立ち上げました。弘前市、また弘前りんごを使ったシードル生産工場NIKKA弘前工場、シードルメーカーであるアサヒビールと、これまでにない産官連携の援農ボランティアツアーを実施いたします。

補助労働力確保の取組みを通じて、弘前りんごのファン拡大や、生産者の方とのエンゲージメントを高める事、さらには関係人口拡大への寄与にも繋がっていくことを目指します。

★★★二冠受賞！★★★

内閣府 企業版ふるさと納税に係る大臣賞
農林水産省 ディスカバー農山漁村の宝award

アサヒビール
ニッカ
ウヰスキー

JTB

青森県弘前市



双方の求める価値をマッチング

事例2. 『Kidsジョブチャレンジ』で“三方よし”的実現

まさに“みんながHAPPY”

リアルな職業体験・経済体験による産官学一体化

地域資源の企画から運営・効果検証までを一貫して担い、
観光誘客とシティプロモーションの新たな仲間たちを創出

テーマ

企業課題×SDGs×探究学習

事業概要

「観光」目的で来訪するファミリー層と「キャリア教育」を体験する子供たち。そして「商工」はプログラム提供する第1次から第3次産業までの受入事業者。誘客＆シティプロモーションに繋がる自治体。

加えて「観光」「教育」「商工」の三要素がベストマッチされ、来場者、受入事業者、地域自治体の三者間が【三方良し】となることが本事業の最大の特徴です。

単なる一過性のワークショップイベントではなく地域の「観光・商工・教育」が一体となって第1・2・3次の全産業を網羅し

リアルな職業理解体験から経済体験までをご提供。

JTBとしては営業展開から地域資源の企画開発、PR、運営、アウトプットの提供、そして効果検証まで持続性のあるワンストップサービスを提供しました。

2025年11月の高観開催（エイチ・ツー・オー リテイリング株様共創事業）においては、食育をテーマとしたプログラムを実施予定。



出展
事業者

JTB

双方の求める価値をマッチング

来場者

開催
自治体

事例3. 大手食品メーカーA社×B社×鎌倉市×○○寺×小学校

『大豆のチカラプロジェクト』

共通課題をもった企業と小学校、地域を巻き込み、
を通じ社会課題解決に貢献！

社会の課題と“食”的本質に向き合う“トキ”的創出により、
人生100年時代を支える食の知恵を育む社会貢献型事業

テーマ

企業課題×SDGs×探究学習

事業概要

醤油・油はそれぞれ大豆が原料という共通点があり、大手食品メーカーA社 & B社はビジネスの枠を超えて、かねてより親しい間柄です。この2社がタッグを組み、食を通じて社会課題解決に貢献した事例です。

「人生100年時代を生きる児童様へ、早期から栄養バランスの重要性やおいしさと健康の関連性を伝えると共に、健康的な生活を送る基礎となる知識を得る・考える機会を提供する。」という目的のため、

児童様が実際に2社がつくった“食育体験”（実習体験）を通じ、「おいしさ体験」から食事バランスを学び、その取組・経験をもとに、保護者・家庭内へ波及、次いで地域へ展開し、大人へも情報の伝達を図りました。

食品メーカー
K様

食品メーカー
N様

JTB

双方の求める価値をマッチング

鎌倉市
民間事業者

鎌倉市の
小学校



JTBは、人と地域の交流を通じて、土地に根ざした産業の魅力を伝え、世代を超えての農山漁村の価値と学びを育む社会の創造を目指します。

事例4.『SICSアイランド構想』

～高松市中央卸売市場を中心とした新たな賑い・人流創出～

地域資源を活用した観光交流や未利用魚・規格外野菜の利活用を通じた、農山漁村の持続可能な活性化と担い手確保

テーマ

企業課題×地域活性×交流

事業概要

高松市では、高松市中央卸売市場の再整備及び活性化に取り組んでいた中、持続可能な賑わいコンテンツ創出や担い手の確保に課題を抱えていました。一方、JTBは、再開発が進んでいるサンポートエリア周辺を瀬戸内及び四国の玄関口と捉え、高松漁港や瀬戸内海などの地域資源を活用した観光コンテンツ開発を行っています。また、今後の本市場の再整備を見据え、市場の賑わい創出や、瀬戸内の島々での新しい旅の過ごし方の開発と拠点設置などを検討してまいりました。

より一層連携して課題解決に取り組むため、協定を締結し、**本市場を中心とした、地域の活性化**を目指しております。

その一環として、観光客と地域をつなぐ、**観光交流拠点「SICSサステナブルラウンジ」**をうみまち商店街内に開設。1階には市場らしい未利用魚や規格外の野菜を使ったダイニング「クセモノズ」をオープン。※JTB高松支店が運営※今後も地域の事業者と共に創り、**瀬戸内を舞台とした様々なにぎわい創出**にアプローチします。

例)「学び」へのアプローチ「うみまちカレー」の開発

クセモノズ (KUSEMONOZ) MOTTAINAI BATON(株)香川大学教育学部附属高松小学校でレトルトカレーを共同開発



「うみまちカレー」
共同開発

香川大学
教育学部付属
高松小学校

JTB

双方の求める価値をマッチング

事例5.『Teamみやわかじまん』

～都市部・地方市町の人材派遣による地域の米産業の発展～

都市人材による地域資源の磨き上げと農業振興を通じて
福岡都市圏と地方圏の持続可能な連携を推進

テーマ

地域課題×人材派遣×産業発展

事業概要

総務省の**起業人制度**を活用し、JTB福岡支店の社員が**宮若市へ出向**している事例です。※2024年度4月から派遣がスタート

宮若市は犬鳴峰の影響で非常に**糖度が高い御米**が獲れ、昨今**世界のコンクールでも表彰**されています。

《参考》

宮田南小学校学生作成資料 [宮若うまい米の魅力](#)

この**農産物を中心とした 物産 × 観光 × 伝統工芸**を繋ぐ組織である「[Teamみやわかじまん](#)」の立ち上げ・運営をJTBからの出向者が担っています。

福岡都市圏と地方圏をつなぐ、取り組みであり、人財派遣により地域の米産業の発展に都市部の社員が貢献しています。



事例6.『Japan Fruits』

～福岡空港を活用した『Japan Fruits』の販売体制の構築を通した地域誘客事業～

九州産果物の魅力を活かした免税・手ぶら観光を促進し、観光消費拡大と産地への誘客を図る農山漁村支援促進

テーマ

地域課題×訪日外国人×産業支援

事業概要

近隣諸国からの来訪が90%を超え、旅行消費単価の低迷が続く九州において、**観光消費の拡大・再来訪者の獲得**は喫緊の課題である中、**自然豊かな九州の上質かつ新鮮なフルーツの販売体制の構築**と**想像を超える買物体験**により**消費の拡大・地方誘客**に繋げた事例です。具体的には、福岡空港国際線ターミナル国際観光案内所を活用した来訪者への**九州フルーツの案内・フルーツピッキングツアー**の販売、九州内の観光農園や生産事業者と連携したフルーツの**免税店化**対応、ならびに案内所での**植物検疫の受検代行・受取体制の構築**を行い、**産地への誘客と消費拡大**を図りました。さらに福岡空港国際線出国制限区域においても、喫食用・土産用のフルーツの販売を通して九州への再来訪促進も図りました。

コンテンツ01 国際線観光案内所 (TIC) を活用した果物産地への誘客と免税・手ぶら観光の促進事業

①フルーツピッキング
商品の造成・免税販売体制の構築

②観光案内所での
産地やフルーツの案内/フルーツピッキングの販売

③観光農園・生産農家の免税販売・案内所への配達体制の構築

④観光案内所での
植物検疫の受検代行/受け取り体制の構築



コンテンツ02 福岡空港国際線「制限区域内」でのフルーツ販売・リピーター促進事業

ギフト用フルーツとして植物検疫の必要がない地域を対象に免税品としてパッキング状態で販売

喫食用フルーツの販売
制限区域内のお客様を対象に喫食用のフルーツを販売